



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和5年8月28日

9月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

自分で考えることの楽しさを子どもたちに

校長 角井 治朗

夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。新型コロナウイルスが第5類に変更されて初めての夏休み、不安の感じ方はそれぞれかとは思いますが、ひとまず何の制限もなく過ごせる日々に喜びを感じます。一方、この夏も様々な災害や事故のニュースが連日報じられており、被害にあわれた方々にはお見舞いを申し上げるとともに、本校の子どもたちが、無事に登校を再開できることに胸をなでおろしているところです。

ところで、8月23日、今年の夏の全国高校野球選手権大会が神奈川代表・慶応高校の優勝で幕を閉じました。地元、神奈川・横浜の学校の活躍には、私のような“にわかファン”も含めて大いに盛り上がりました。準々決勝、準決勝と勝ち上がるにつれて、メディアで取り上げられる機会も一段と増え、107年ぶりの優勝という驚きとともに、監督や選手たちの高校野球に向き合う姿について触れる話題も耳に届いてきました。そして、そうした話題の見出しには、度々「新風」とか「常識をくつがえす」といった言葉が添えられていました。いったい何が「新風」で「常識をくつがえす」姿だったのでしょか。「髪型が自由」といったことも話題にはなりましたが、それよりも私が印象に残ったのは、選手の「自主性」を尊重する姿勢と野球そのものを楽しむ「エンジョイ・ベースボール」の考え方です。慶応高校野球部の森林監督は、「野球は選手たちのもの」と言い切り、練習方法から戦術に至るまで、選手たちが考えたり判断したりするようにしているというのです。監督の指示通り動く選手・チームから、自ら考えて動く選手・チームの在り方は、これまでの高校野球の常識とは考え方を異にするようです。また、高校野球に取り組む選手たちの多くが野球を楽しんでいるであろうことは想像できますが、どんなピンチでも、自分たちで考えながら、より主体的に野球に取り組んできた慶応高校の選手たちの「エンジョイ・ベースボール」の感じ方は、際立っていたのではないかと感じます。森林監督の選手の自主性を尊重する考え方は、「自分で考えることが一番難しく、一番おもしろい。」という言葉に表れています。その姿勢には、決して「放任」や「丸投げ」ではなく、選手たちへのリスペクトと選手たちの成長を見据えた適切な指導があったことを、選手たちの姿が示していました。

いよいよ夏休みが終わり、前期もまとめの時期に入っていきます。元気に登校してきた子どもたちですが、中には、久しぶりの学校に不安やストレスを感じている児童も少なくないのではないかと思います。子どもたちの様子にしっかりと気を配りつつ、私たちも子どもたちが主役となって活動を楽しめるような学びの場づくりに努めていきたいと思っています。